全三菱が大差で優勝

第62回全三井・全三菱テニス大会

第六二回全三井・全三菱テニス大会が一一月二三日、東京都西東京市の三菱東京UFJ銀行武蔵野コートで開催された。ダブルス二五試合の結果、全三井は六勝一九敗で全三菱に大敗。過去最低の勝ち星を記録し、連覇を逃した。これで通算の対戦成績は全三井の二七勝三二敗三分（中止）となった。

毎年、「勤労感謝の日」に行われる全三井・全三菱テニス大会。今年も三井系テニスクラブ・浜田山ローンテニス倶楽部の栗岡威会長（元三井住友海上副社長）を全三井代表とし、三井各社から実業団やOBなど二五組五〇名の精鋭選手が集まった。出場会社はOBを含め、三井住友海上、三井住友信託銀行、三井不動産、三井住友銀行、三井物産、三井化学、三井生命、エームサービス、日本ユニシス、旧三井鉱山の一〇社。

試合形式はハゲームマッチ。全てダブルスで一般男子一三、ベテラン（四五歳以上）三、シニアベテラン（五五歳以上）三、グランドベテラン（六五歳以上）三、女子三の五クラスで計二五試合を行い、一三勝以上したチームを勝ちとする。

開会前の挨拶で栗岡会長は「二〇二〇年東京五輪までに全三菱との勝敗差を五分にする」という長期目標を強調し、選手たちを激励した。

過去四回は三勝一敗と勝ち越している全三井は日本リーグにも出場している実業団の海上、エームから有力選手が出場。一方、全三菱も三菱電機、明治安田生命、東京海上日動などの実業団を主力とする必勝の構えで臨んだ。

序盤、全三井は一般男子で第一複を務める加藤・遠藤組（海上）が強豪の電機組に勝利。早稲田・慶応の元テニス部主将ペアが先鋒の役目を見事に果たした。

しかし、第二複以降は全三菱が全三井を圧倒。第六複まで日本リーグ級の精鋭選手を揃えた全三菱に歯が立たず、黒星を重ねていく。

一般男子で五分に持ち込み、ベテラン・シニアで勝ち越し、逃げ切る全三井の勝ちパターンは中盤を待たずに崩された。例年は優勢のベテラン・シニアも今年は全三菱に苦戦を強いられ、栗岡会長率いるグランドベテランも敗退。女子はエームの元プロ・岡田上選手と村上選手が貴重な勝ち星を挙げるも一七試合を消化した時点で全三井は五勝一二敗と大きく負け越す。

全三菱の勢いは止まらず、一般男子は二勝一一敗で完敗した。ベテランと女子は一勝二敗、グランドベテランは〇勝三敗。シニアベテランは二勝一敗で唯一勝ち越し、五クラス全敗は免れた。

終了後はクラブハウスで懇親会と表彰式が開かれ、前年王者の全三井・栗岡代表が全三菱・藤井道雄代表（電機OB）に優勝杯を手渡し、互いの健闘を称えるとともに、テニスを通じた三井・三菱のグループ交流を深めた。

ダブルス25試合の熱戦が行われた

日本リーグに常連出場の三井系実業団選手も苦戦を強いられた。㊤男子複の大城・渡邉組（海上）、㊦女子複の中山・田中組（エーム）

優勝杯を手渡し、固い握手を交わす全三井・栗岡代表㊨と全三菱・藤井代表㊧

栗岡威・全三井代表「敗軍の将、兵を語らず（笑）。歴史的な大敗で、東京五輪までに追い付く計画が早くも崩れた。捲土重来を期す」

藤井道雄・全三菱代表「これほど大勝できたのは今年の異変の一つ（笑）。目的は三井・三菱の親睦なので、これからも楽しく続けたい」

日本リーグでリベンジを

エームサービス　中山 美樹　田中 夕貴 さん

女子第二複を務めた実業団選手の中山さん（二四）＝写真㊨＝と新人の田中さん（二三）＝同㊧。中山さんは帝京大学、田中さんはびわこ成蹊スポーツ大学出身の実力者だ。二人とも全三井・全三菱戦に出場するのは今回が初めて。同じく実業団の強豪・明治安田生命組と熱戦を展開し、6－8の僅差で敗れた。中山さんは「（明治安田生命とは）対抗戦で負けたばかりなので、リベンジしたかった。自分のミスが多く、後半の立て直しが遅れた」と悔やむ。序盤は2－5と離されたものの、中盤は5－7まで近付いた。田中さんは「相手も強いので、引き締めて臨んだが、ハゲームマッチなので先行されると厳しい」と振り返る。

今年も一二月から始まる日本リーグ出場を決めているエームと明治安田生命。予選ブロックは異なるが、順調に勝ち進めば再戦する可能性もある。中山さんは「予選ブロックも厳しい戦いになるが、エーム全体で盛り上げて決勝トーナメント進出を目指す」、初出場となる田中さんは「大舞台なので緊張せずに臨みたい」と意気込む。

全三井・全三菱の伝統の一戦は、日本リーグでも見られるかもしれない。

全三井の早慶ペア

三井住友海上　大城 光　渡邉 将司 さん

全三井男子複の強豪の一角を担ったのは「早慶ペア」の大城さん（二四）＝写真㊨＝と新人の渡邉さん（二二）＝同㊧。大城さんは早稲田大学、渡邉さんは慶応大学のテニス部出身だ。次鋒の第二複を務めたが、日本リーグにも出場している東京海上日動の早稲田OB組に5－8で敗れた。

初出場の渡邉さんは「早慶戦のような気持ちで臨んだ。ハゲームマッチなので、序盤が大事だった」、大城さんは「（相手は）現役時代から負け続けていた先輩なので、全三井の代表としても今日は勝ちたかった」と無念を表わした。

各ゲームとも実力伯仲の熱戦を展開。接戦の末に落としたゲームも多く、二人は「セミアド方式だったので、デュースの後、取り切れなかったゲームが四回くらいあった。ブレークチャンスもあったが、逆転されてしまった」と悔やんだ。

今年は二二年連続出場していた日本リーグを逃したものの、大城さんは「大型新人が入社予定なので、来年は二チーム編成で、どちらも日本リーグ出場を目指して頑張る」と前向きだ。渡邉さんも「栗岡会長のためにも一年でも早く、（勝敗差で）三菱に追い付きたい」とリベンジを誓った。

第62回全三井・全三菱テニス大会　試合結果

一般男子（全三井２－11全三菱）

加藤・遠藤（海上）	○８－３●	福田・池川（電機）
大城・渡邉（海上）	●５－８○	上本・田川（海上）
由井・粟谷（海上・不動産）	●１－８○	上村・尾形（生命）
矢崎・細貝（エーム）	●６－８○	千場・樋口（生命）
佐藤・畠中（銀行）	○８－６●	野原・高山（生命）
高橋・鍛代（エーム）	●４－８○	長谷川・井上（海上）
魚谷・川村（銀行）	●５－８○	有松・鈴木（マテリアル）
上林・境野（エーム・ユニシス）	●８－９○	小川・吉田（重工）
手嶋・菊池（海上・生命）	●８－９○	加藤・目黒（マテリアル）
柳内・平木（物産）	●２－８○	橋場・大橋（銀行）
弓削・溝間（銀行）	●Ｗ　０○	尾崎・井上（海上）
升井・城戸（銀行）	●５－８○	古村・朝川（商事）
福本・藤原（海上・銀行）	●２－８○	塚原・塚本（銀行）

ベテラン（全三井１－２全三菱）

奥山・平尾（ユニシス・銀行）	●８－９○	山岸・櫻井（銀行）
藤田・登山（銀行）	●２－８○	岡田・山室（海上）
成川・神山（信託）	○８－６●	松岡・佐々（電機・銀行）

シニアベテラン（全三井２－１全三菱）

田中・小林（銀行・信託）	○８－６●	多屋・木村（海上・電機）
小松・黒住（物産・銀行）	●５－８○	柏木・安福（商事・電機）
野下・笹島（銀行）	○８－１●	今西・矢野（商事・化学）

グランドベテラン（全三井０－３全三菱）

酒井・中田（不動産・鉱山）	●３－８○	川緑・小野（キリン・硝子）
吉井・栗岡（物産・海上）	●３－８○	生川・伊藤（化学）
片岡・早川（物産・化学）	●３－８○	藤井・田中（電機・重工）

女子（全三井１－２全三菱）

岡田上・村上（エーム）	○８－２●	木川・大竹（生命）
中山・田中（エーム）	●６－８○	松田・泉水（生命）
今橋・妹尾（銀行）	●１－８○	菅村・前原（銀行）